



3月11日の地震直後からスタートした店頭販売。多くの人が毎日押し掛けた。

大混乱のさなか 店頭販売を決断

——地震発生直後の状況を教えてください。
さ。い。

私は小美玉市にある本部で店長会議
に出席していました。地震の後、すぐに
店へ向かいましたが、着いたのは午後4

震災直後から店頭販売を続けたのは 「組合員に食料を供給する」という 私たちの使命を果たすため

時ごろ。店内は天井が何カ所も落ちてい
る上、商品も床に散乱していて、足の踏
み場もないくらいでした。けが人が出な
かったことは不幸中の幸いです。
とにかくいったんお店を閉めて店内の
状況を確認していると、店の外に買い物
客が集まっているのです。一瞬ためらいま
したが、私たちの使命は「組合員に品

いばらきコープ・コープ水戸店

東北から関東に甚大な被害をもたらした東日本大震災。
いばらきコープのコープ水戸店も天井が崩落し、
電気と水道の供給がストップした。
本部との連絡もままならない中、
君和田 敬 店長の指示ですぐに店頭販売をスタートし、
改修工事が始まるまでのおよそ2週間、
休むことなく営業を続けた。
震災後の店舗運営と今回得た教訓について、
君和田店長にお話を伺った。



いばらきコープ・コープ水戸店
店長 君和田 敬さん

物を提供すること」ですから、午後5
時前から店頭販売を始めました。
電気は止まっていましたが、私たちの
店舗には「ふれあい便」という買い物
困難な方に移動販売を行なうトラックが
あります。そのライトで店先を照らし
て、トラックに積んであるレジで会計を
したので。午後8時に非常用の自家

発電も止まりましたが、懐中電灯で商
品を探しながら、その日は午後9時ごろ
まで販売を続けました。

——従業員の安全確認はどうされたの
ですか。また店頭販売はいつまで続
けましたか？

停電しているので、通信手段は携帯電
話だけです。電話がかかりにくく、連
絡が取れなかったのですが、夕方からの
アルバイトが予定通りに来てくれたり、
非番だけれど店を心配して見に来たパー
ト職員に手伝わってもらって店頭販売を続
けながら、合間に電話をかけ続けまし
た。埼玉県で会議に参加していた職員
1人を除き、午後11時までに10人全員
の安全が確認できました。

その日の夜は職員4人で泊まり込ん
で、翌朝にはまた店頭販売を始めまし
た。値段は100円、200円と大ざら
ばに決めて、電卓で計算したのです。最
初の2日間は電気も水道も止まっていた
ので、パンやお菓子などすぐに食べられ
るものが売れました。

店頭販売は2週間後の3月25日まで
行ない、3月26～31日は店内の復旧に専
念して4月1日から通常営業を始めま
した。

うれしかったのは、営業を再開した4
月1日は平日、しかも普段よりも早い午
後6時に閉店したのに震災前の来店者
数に戻っていたことです。地域の皆さん
が私たちの店舗を頼りに生活している証
しだと受け止めています。店頭販売だ

2月下旬に導入したばかりの買い物支援用トラック移動店舗「ふれあい便」。震災当日にはふれあい便のレジを会計用として活用した。



——本部との連絡もままならない中、見事な対応ぶりですね。店頭販売の判断はご自分で？

そうです。実は阪神・淡路大震災のとき、現地で生協の店舗を手伝ったので

今なすべきことを自分で判断する

と肉や魚などの生鮮品が販売できませんから、とても不便だったと思いますし、私自身も悔しかった。とはいえ、店頭販売を続けたことは間違っていないかと思っています。

ですが、その際に「地震直後から店を開けて入り口で水や食料を販売していた」と聞きました。自分で見聞きした経験はやはり役に立つものですね。

——今回の経験を、今後の危機管理にどう生かすべきでしょうか？

最も重要なことは「この経験を語り継いでいくこと」です。

職員にとつては貴重な経験になりました。電話すら通じないので、すべてを自分で判断するしかないのです。こういう極めて異例な状況を乗り越えたことは大きな財産です。

これを語り継いで、非常時に的確な判断ができる人間を1人でも多く育てること。それが今後の組織にとって大切

なことだと思っています。

——苦勞を共にした職員に一言お願いします。

家に帰れない職員のために、パート職員は食べ物を差し入れてくれたり、お風呂を貸してくれたこともありました。また、普段よりもいろいろな話ができただので、店内の結束が高まったというプラスの面もありました。

泊まり込んで復旧に取り組んでくれた職員、自らも被災者なのに「地域の人に貢献したい」と出勤をいとわなかったパート職員、みんなに「ありがとう」と言いたいですね。

(文・写真 前川太郎)

「日本を食卓から元気にしたい。生産者応援のつどい」を開催



コープネット事業連合

東日本大震災に伴う原発事故により、コープネットエリア内でも風評被害が出ています。その産地・生産者を支援しようと、東京都とコープネットエリア8都県JA連絡会*の主催(後援:コープネットエリア産地協議会、東京都生協連)による「生産者応援のつどい」が、5月14日(土)東京国際フォーラム地上広場(JR有楽町駅前)で開催され、茨城県、栃木県、千葉県、福島県の農産物が販売されました。行き交う人の多くが足を止め、新鮮な野菜や農産加工品などを購入していました。

開会のあいさつでコープネットの赤松光理事長は、「残念ながら風評被害はまだ続いています。これを防ぐためにできることは、一つは私たち生協が利用し続けること。そして、もう一つは正確な情報を消費者に伝えていくことです。政府にも正確な情報の公開を求めるとともに、これを分かりやすく消費者にお伝えし、利用を広げていきたいと考えています。コープネットではこれからも生産者を応援し、日本を食卓から元気にしていきます」と力強く話しました。



コープネットの赤松理事長。

*8都県内の生協(いばらきコープ、とちぎコープ、コープぐんま、ちばコープ、さいたまコープ、コープとうきょう、コープながの、コープにいがた、コープネット事業連合)と各県の農協、JA全農による交流組織。生産者と消費者をつなぎ、「産地消」を広げる取り組みを進めている。



天井の崩落で特にひどかったのはパン売場の前。7~8mほどにわたって落ちたが、今はきれいに復旧した(写真左)。